

# 天王山からサントリーへ

(第99回くらわん会 2004/09/07)

九月例会は、日本全土に甚大な被害を残した台風19号襲来の日と重なった。大山崎の離宮八幡宮から天王山を目指し、途中から観音寺・山崎聖天さんへと下り、水生野(みなせの)と呼ばれた山崎の名水で醸造するサントリー山崎醸造所を見学するコースである。

台風19号は今朝九州の西海岸、今夜は近畿に接近の予定、そんな中でも91名の仲間が離宮八幡宮に集まった。平安末期、「離宮八幡宮」の社司が荏胡麻を栽培し、長木という道具を開発して大量の搾油を始めた。採れた油は宮中にも献上され、社司は「油司」と認定される。後の鎌倉・室町時代には、「油座」の本所としてえごま油の製造・販売権を独占しおおいに栄えた。いまま植物油の総元締めとして、全国の製油メーカーから油が奉納されている。電気のない時代には油による灯明が人々にもたらしたのは、単なる明るさ以上のものであったろう。もとは嵯峨天皇の離宮とされたことから、「離宮」の名の残った神社である。

朝会で原会長から100回記念行事関係の詳しい説明を受ける。枚方南、枚方北、枚方外の三グループに分かれて記念撮影を撮る。100回記念誌に掲載の予定だ。山本副会長からのコース説明の後、元気に出発、京都府と大阪府の県境に立つホームがあるJR山崎駅前を通過して、右手に室町時代後期、東福寺の僧春嶽が開山したという妙喜庵を眺めながら進む。妙喜庵には千利休が創作した唯一の茶室ともいう「待庵」(国宝)がある。踏切を渡り「宝積寺」への急坂を登る。猛暑が続く秋口だが、今日は台風からの風が強く暑さはしのげるが、それでも汗が滴り落ちる。

宝積寺(宝寺)の重要文化財「木造金剛力士立像」2体がある仁王門をくぐる。奈良時代、天武天皇の第一皇子は、夢に出てきた龍神さんから「打出」と「小槌」をもらったそうだ。これで左の手の平を叩けば果報がもたらされるという。それから数十日後に、皇子は天皇の位を譲り受け聖武天皇となった。天皇は行基に命じ、景勝地「山崎」

朝会で原会長から百回記念行事関係の詳しい説明を受ける



全国の製油メーカーから油が奉納される油座の本所、離宮八幡宮を出発



踏切を渡って天王山上り口の急坂を登る



宝積寺(宝寺)の重要文化財「木造金剛力士立像」2体がある仁王門をくぐる





天武天皇の第一皇子が小槌を奉納する宝積寺を建立、十一面観音立像(重文)が安置されている



谷を越えてさらに急坂の道を登る



青木葉谷広場で小休止、水分補給と休憩



さらに登ると旗立松展望台や酒解神社、十七烈士の墓があり三川合流の眺めが絶景だが、途中から山崎聖天へ

に小槌を奉納する寺を建立した。それが、宝寺とも呼ばれる「宝積寺」だ。後にこの寺で修行したと伝えられるのが、「一寸法師」でみごと鬼を退治し、打出と小槌で立派な若者にしてもらったのは周知のお話し。

また、豊臣秀吉がそこに座して天下統一を考えたという「出世石」も残される。さて打出と小槌が授けるものは、野望をかなえる「運」であろうか。いまでも、運を授かりに多くの人を訪れる。「閻魔大王」や鎌倉時代の傑作「十一面観音立像」、秀吉が一夜で建立したとされる「三重の塔」などの重要文化財が多彩に揃う古刹である。ここで水分補給を十分に行って、運を授かり出発する。

ここからさらに急坂を登り、青木葉谷広場で小休止する。さらに登ると天王山の7合目付近にある旗立松展望台や酒解神社の大鳥居横には天下分け目の合戦の大パノラマ図、「十七烈士の墓」などがあり、桂川、宇治川、木津川の三川合流の眺めが絶景だが、今日は途中から山崎聖天さんに向かって下る。竹やぶの中のこの道は岩がごろごろとして急坂で滑りやすい。十分に気を付けながら下り途中から観音寺(山崎聖天さん)の裏門から境内に入る。

京阪神の人々の厚い信仰を得ている「観音寺」の鎮守「聖天さん」は、実に魅力的である。首から上が象、首から下が人間のかたちをした双身が、男天と女天として相抱きあう秘仏である。聖天さんはもとはインドの象頭種族、美女になりすました十一面観音にほだされ、聖天となったそうだ。またの名を「歓喜天」と聞けば、何やら親しみやすい気がしてくる。お寺の創建は平安期の宇多天皇、開山は江戸初期の僧、木食以空上人と伝わる。夫婦和合や除災招福、商売繁盛に御利益があるとされている。緑の木々が覆い被さる参道の階段付近をそれぞれに確保して昼食を取る。予報では大雨もと言われていたが、涼やかな風が耳元をすり抜け心地よい時間帯となる。早めに昼食を切り上げJR山崎駅の裏を抜けてサントリー山崎醸造所に向かう。

天王山系と男山丘陵がせまり、桂川、宇治川、木津川の三川の合流地点、起伏に富んだこの場所では、水温の差によってしばしば霧が発生する。スコッチの故郷、スコットランドによく似た湿潤な気候と、昔から知られる名水、ここを、ウイスキーづくりの理想郷として、1923年、壽屋(現サントリー)の創業者・鳥井信治郎は、この地でモルトウイスキーの蒸溜所建設に着手、国産ウイスキー誕生への第一歩の歴史のページを開いた。案内のお嬢さんからシングルモルトウイスキー山崎の製造工程を説明を受け、ゲストホールで待望の試飲、ハーフロックの作り方の指導と試飲が始まった。「響」「山崎」どちらも最高の味だった。

富田朝己記

岩肌が露出して滑りやすい道に注意しながら聖天さんへ下る



首から上が象、首から下が人間のかたちをした双身が、男天と女天として相抱きあう秘仏、大聖歓喜天王が聖天



覆い被さる茂みの中の観音寺大仁王門

参道はJRを超えて続くが、山際の道に大鳥居がある



風が通り抜けて涼しい観音寺参道で昼食を摂る

天王山山沿いの道をJR大山崎駅を越えてサントリー山崎醸造所へ向かう





天王山の山懐に抱かれたサントリー山崎醸造所に到着

創業者鳥井信治郎像、第二代マスターブレンドー佐治敬三像、大正時代に使われた日本初のポットスチル



独特の形をしたポットスチルの熱気とウイスキー原酒の香りが濃密に漂う蒸溜室

オークの樽で寝かされたシングルモルト右が三年、左は十二年物で琥珀色になり量も六十%位に



貯蔵庫に静かに眠るオークの樽、生産開始時一八二四年の原酒樽も公開されていた

ゲストルームでシングルモルト山崎の美味しい飲み方、ハーフロック作りを伝授



ゲストルームでシングルモルト山崎12年、ブレンドWhisky響をハーフロックで試飲

ウイスキーライブラリーには一グラス五千円のウイスキーもあったが、山崎で作ったバーボンを頂く





<行程>

阪急大山崎駅前⇒離宮八幡宮⇒JR 大山崎駅前⇒宝積寺⇒青木葉谷広場⇒山崎聖天宮⇒山崎聖天宮参道で昼食⇒サントリー山崎醸造所 ⇒JR 大山崎駅 歩行距離：約7km

2004年09月07日(火) 第99回例会 91名参加